HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	エコツアーは自然保護の新しい手法になる
Author(s)	敷田, 麻実
Description	特集 生物多様性保全に役立つエコツアー
Citation	自然保護, 507, 15-15
Issue Date	2009-01-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35156
Type	journal article
File Information	shikida_P15.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

エコツアーは自然保護の新しい手法になる

敷田麻実（しきだあさみ）
（北海道大学観光学高等研究センター）

エコツアー参加者にはアクションが求められる

地域の環境に配慮しながら体験・学習し、地域の自然環境や文化の保全、経済・地域の活性化などに貢献する旅――。エコツアーはこうした「やさしい」イメージを持つ旅だからこそ、今一度、エコツアーが地域に何をもたらすのかを考えなければなりません。

というのは、エコツアーはその規模やスタイルによっては、地域社会や自然環境に悪影響を与える「諸刃（もろは）の刃（やいば）」となるからです。これは商業としてのエコツアーが持つジレンマで、屋久島の登山道の過剰利用や知床の混雑はこの例です。「優れた自然に配慮しながら触れ合いたい」という旅行者の思いとは別に、旅行者の集中が環境に対する大きな負荷となる場合もあります。その緩和のためには、旅行者として単にツアー参加者であるだけでなく、何らかのアクションが私たちに求められるはずです。

他地域の情報を紹介し、ノウハウ移転を促進する

一方的にツアー事業者に、「自然環境に配慮しろ」という注文をつけることだけを勧めるのではありません。むしろ、エコツアーというサービスの売買を通して、お客と事業者がコミュニケーションできることを利用したいのです。まず一歩目としては、旅行者が良いと思うエコツアーを選び、それを評価することです。評価によって、よりエコツアーの価値が高まり、地域の自然や文化の保全に役立ち、地域の活性化にもつながります。

しかし、「物言う観光客」として、エコツアーを選んだり、一方的に地域のエコツアーに注文をつけるだけでは不十分です。専門家的要素を持つ消費者、リードカスタマーとして、ほかの地域で経験した優れたエコツアーの存在を知らせ、自らが持つ保全ノウハウなどを地域へ紹介・提案してはどうでしょうか。ほかの地域で活用されているノウハウ移転を促進する役割もエコツーリストにあります。それは地域のエコツアー事業者に影響を与え、ツアーの質を向上させるでしょう。

〝旅行者〟として地域外の自然保護にかかわる

こうした「かかわり」を煩わしいと感じてはいけません。それは地域の自然環境保全における新たな「手法」です。今までの自然環境保全は地域内で活動が行われ、地域外からのボランティア支援などの例外を除いて、地域の人が自分たちで行うものでした。それに対しエコツアーは、地域の保全関係者と地域外の旅行者（消費者）がコミュニケーションできる機会です。地域の自然保護関係者にとっても、地域外の社会や消費者との関係を再構築するチャンスなのです。

自然保護や環境保全にかかわる私たちは、たとえ地域外にいようとも、〝生物多様性を守るエコツーリスト〟として、地域にかかわることができる時代です。エコツアーは、自然保護の新しい手法になるのです。

右上写真：敷田麻実